

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について

(2025年度)



Shintetsu

1. ROEの改善に向けた取組

当社グループの事業特性

グループの核となる鉄道事業に関わる事業用資産への維持更新投資のウェイトが高く、今後も次世代に向けた鉄道施設・設備への更新投資は必要不可欠。



資産効率の低下や有利子負債の増加

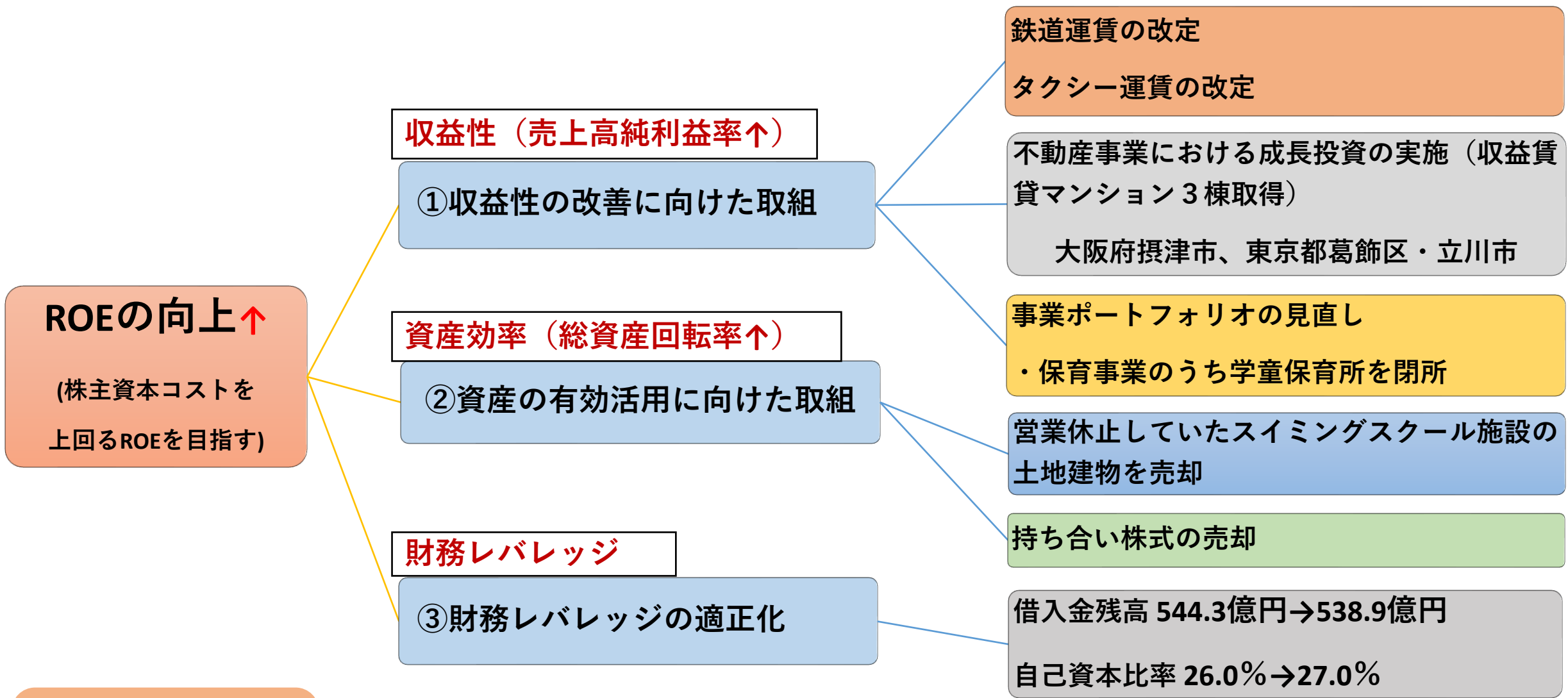
ROEの改善に向けた取組

上述の事業特性を踏まえ、当社グループは資本収益性向上に向けて、ROEを構成する「収益性」「資産効率」「財務レバレッジ」の各要素において改善策を進めております。これらの取組によりROEの向上と企業価値の増大を図り、その結果として株価指標であるPBRの改善にもつながるように努めております。

・ ROE（自己資本利益率） = 当期純利益 / 自己資本 ROEを細分化すると以下のとおり

ROE	=	(売上高純利益率)	×	(総資産回転率)	×	(財務レバレッジ)
	=	$\frac{\text{当期純利益 } 1,462}{\text{売上高 } 23,347}$	×	$\frac{\text{売上高 } 23,347}{\text{総資産 } 93,493}$	×	$\frac{\text{総資産 } 93,493}{\text{自己資本 } 24,413}$
		①		②		③
		(収益性)		(資産効率)		(財務レバレッジ)
【参考】						
2025年度 5.99%	=	6.26%		0.25倍		3.83倍
(2024年度) (4.95%)	=	(5.20%)		(0.24倍)		(3.85倍)

2. ROEの改善に向けた具体的な取組と株主還元策（2025年度）



株主還元策の拡充

- ・ 2026年3月期末配当は5円増配して25円/年 ⇒ 0.81%〔純資産配当率(連結)〕
(2025年3月期末配当は20円/年 ⇒ 0.69%〔純資産配当率(連結)〕)

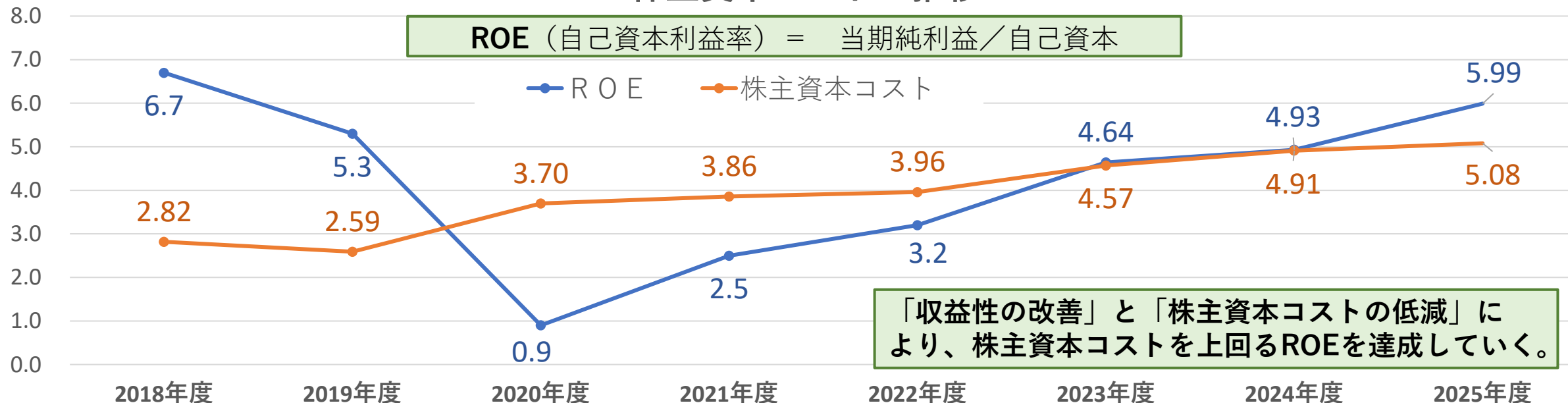
3. 資本コストと資本収益性の推移と実績

2025年度は固定資産売却益による特別利益の計上もありROEは予想よりも上振れし5.99となり、株主資本コスト(※)は5.08となったことから、エクイティスプレッドは1%近くまで広がりました。

今後も株主資本コストを上回るROEを達成するため、**収益性の改善**に注力するととともに、リスクフリーレート（長期国債利回り）の上昇基調により引き続き上昇が見込まれる**株主資本コストの低減**に努めてまいります。

※当社では株主資本コストの算出について、CAPM（資本資産価格モデル）を使用

ROEと株主資本コストの推移



CAPMによる株主資本コストの算出方法〔2025年度〕

リスクフリーレート
2.35%

+

リスクプレミアム
4.72%

×

β（価格変動率）
0.579

=

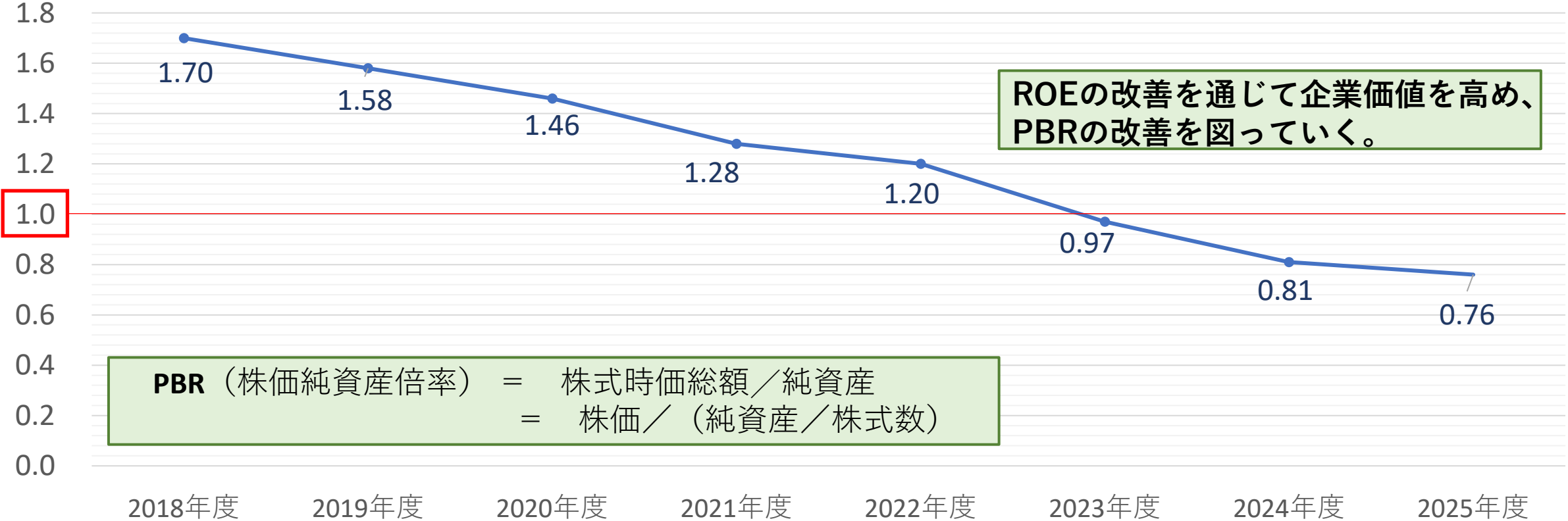
株主資本コスト
5.08%

4. 市場評価（株価）の推移と実績

2025年度末のPBRは、前年度よりも株価が2.2%（53円）上昇したものの、利益剰余金の増加等に伴う純資産の増加もあり、0.05ポイント低下して0.76となりました。

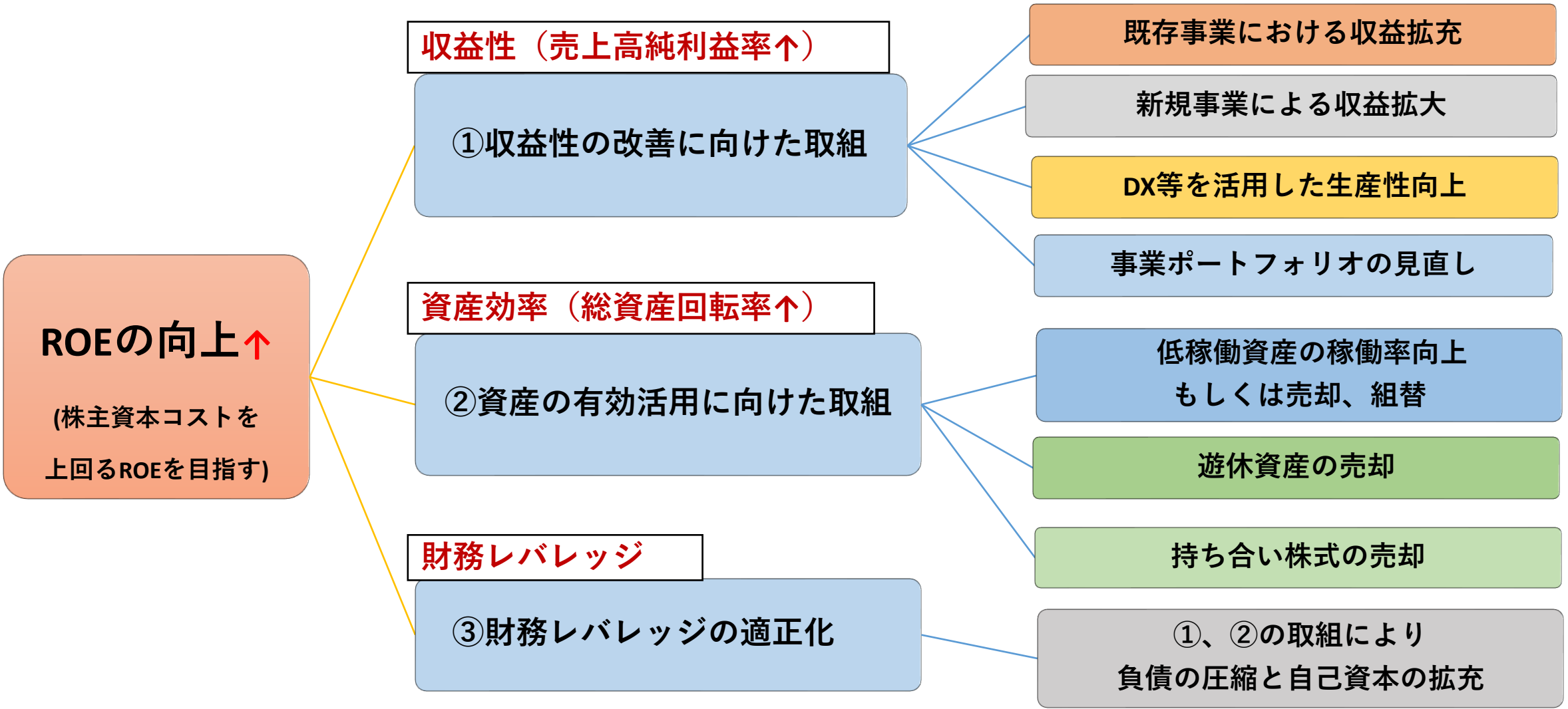
今後も純資産の増加に伴って低下していくことが想定されますが、より**収益性を高め、企業価値を向上させる**ことによりPBRの改善に努めてまいります。

PBRの推移と実績



5. 今後の資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組①

(1) ROEの改善に向けた取組の施策



5. 今後の資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組②

「事業資産の維持更新投資」・「成長投資」・「人的資本投資」のバランスを考慮しつつ、①収益性の改善に向けた取組、②資産の有効活用に向けた取組、③財務レバレッジの適正化に取り組みながら、株主還元策についても検討を進めてまいります。

(2) 株主還元策の拡充

配当政策

- 安定した配当を継続的に行うことを基本方針
- 内部留保資金については、持続的な成長のための投資と、鉄道事業における安全対策投資に充当

株主還元策の拡充

- 純資産配当率(連結) 1%を目指して安定した配当を継続的に実施
2026年3月期末配当25円/年 ⇒ 0.81%〔純資産配当率(連結)〕
- 【参考】2026年3月期末配当25円/年 ⇒ 13.5%〔配当性向(連結)〕
- 財務の健全性や資本効率等を考慮して機動的に自己株取得を実施